

# Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)  
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』  
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学

## 特色人材 育成部会

### 事業成果報告会「地域と協働した大学の活動！」を開催

特色人材育成部会では、県内5大学と地域の自治体・企業などが協働し、地域産業を自ら生み出す人材など、地域を担う人材育成を地域での活動を通して推進しています。この事業の成果を地域に広く周知するために『地域と協働した大学の活動！』と題した報告会を9月22日に福井工業大学で開催しました。

市民の方、大学教職員、学生など100名を超える参加があり、「原子力人材育成プロジェクト」「ふくいブランド創出プロジェクト」「地域とともに歩む景観・地域活力向上プロジェクト～和田de路地祭～」 「バイオ・六次産業化推進プロジェクト～仁愛大学・福井県立大学からの発信～」 「課題探求の“授業化”国際学生交流」「地域で活躍できる看護・福祉人材の育成」の活動をそれらに参加する教員と学生が報告しました。学生が話すことによって、活動に対する学生たちの関わり方が良く分かったと参加者から好評でした。また、地域そして地域の産業と強く結び付いた多くの事業が各大学での課題解決型授業(PBL(Project-Based Learning)授業)として行われていることや、いくつかの大学の学生・教員が協働して推進する事業も多いことが認識されました。特色人材育成部会では、今回の成果報告会について報告書を作成する予定です。

(部会長 福井工業大学 地域連携研究推進センター長 羽木秀樹先生より寄稿いただきました。)



## 高大接続・高大連 携・入試改革WG

### 平成29年度 県内5大学合同進学説明会を開催

8月26日に大学連携センター(Fスクエア)で県内5大学合同進学説明会を開催しました。昨年度同様、本年度も模擬講義を企画の一つとして並行して実施し、参加者数は58名でした。

参加者アンケートでは、合同進学説明会および模擬講義に対して参加者の全員が「良かった」または「まあまあ良かった」と回答し、これらの取組により高校生の理解を深めることができました。また将来、福井県内の大学に進学したいかという設問では、参加者の約8割が進学を検討し、また、就職後の居住地として福井県を思い描いていることが明らかになりました。更なる参加者数を増加するためにどのような企画を実施するのかを5大学で検討することが今後の課題です。

(WG長 福井大学 アドミッションセンター 大久保貢先生より寄稿いただきました。)

## 学生必読

### シリーズ「ふくい地域創生士」

いよいよ後期が始まり、「ふくい地域創生士」認定に向けた申請が各大学で始まりました。大学連携センター(Fスクエア)にも、ポスターが掲示されたり、PR動画が流れたりしています。もう見てくれましたか？

大学、学部によって締切日が異なるので要注意！すぐにアクションしよう！！



↑ 申請書 ↑

### 【舟木コーディネーターからのちょこし耳よりなお話し】

「インターンシップは、夏だけ！」って思っていないですか？実はもう古い！今年からは、秋冬開催のインターンシップにも企業側は注力し募集が出始めているそうですよ。まだインターンシップに参加していない学生も間に合います！

さあ、これを読んだら、各大学の就職担当窓口にご相談に行ってみよう。自分の経験値をあげて、将来の選択肢を増やしましょう！！



舟木コーディネーター



## 看護福祉 分野WG

### 看護学生のためのシンポジウム「在宅療養を支える多職種連携の現状と課題」を開催

9月30日敦賀市立看護大学において、看護学生のためのシンポジウム「在宅療養を支える多職種連携の現状と課題」を開催しました。福井大学、福井県立大学、敦賀市立大学の看護学生を中心に約200名と非常に多くの参加があり、関心の高さがうかがわれました。参加者は敦賀市の在宅医療・介護の第一線で活躍されているシンポジストの話に耳を傾けました。

アンケートでは、「在宅医療・介護の領域への関心が深まった、やや深まった」と回答した人が96%を超え、「様々な立場の方の話を聞けて良かった」、「看護師へ求められているモノが大きくなっていると思った」などの感想が寄せられました。

学生に、授業では聞けない現場の話を聞くことで、多職種連携について考え、その必要性を実感してもらいたいという思いで開催したシンポジウムでしたが、大変有意義なものとなったように感じます。御協力を賜りましたシンポジスト、コーディネーターの先生方に心より御礼申し上げます。

(WG長 敦賀市立看護大学 看護学部 高原美樹子先生より寄稿いただきました。)



## ふくいブランド 創出分野WG

### 「ふくいブランドに夢中です！」～ふくいブランド創出分野WGの活動内容～

ブランドWGでは、幹事校である福井工業大学デザイン学科で、福井の魅力複眼的な視点から探るべく、5つのチームを編成して活動しています。

食チーム(農海産物・加工食品・日本酒)、モノチーム(伝統工芸・生産技術)、コトチーム(祭・景観・体験価値)、映像チーム(PV制作・COC+活動記録)というラインナップに加え、福井大学と共同活動中の「ヒトチーム」(独特の仕事や暮らしをする人を探求)があります。

平成29年度に入り、どのチームもノッてきました!「食チーム」(指導:三寺先生と玉野先生)では、手はじめに福井のおいしい食べ物を次々と試食。ディスカッションを重ね、福井らしさを表す独自の指標「福井度」を提案して、地域の食文化のカルテづくりを進めています。今は来年度開催を目指す「へしこサミット(仮称)」へ向けて、へしこの製造体験やへしこ料理の試作に余念がありません。

来年はCOC+が4年目に入ります。具体的な成果の一つとして、福井の地域資源をめぐる各チームの研究成果を、本にまとめる計画も進行中。さらにチームの枠組みを超えて、新しい独自のブランド価値を生み出すべく、早くもスタートに入る構えすら見せています。

(WG長 福井工業大学 デザイン学科 川島 洋一先生より寄稿いただきました。)



## まちづくり 分野WG

### 都市・地域計画及び交通計画系研究室「夏期合同ゼミ2017」を開催

都市デザインや交通・地域計画を学ぶ学生が大学や研究室間の垣根を越えて交流することにより、学生同士の交流を深め、視野を広げることを目的とした「夏期合同ゼミ2017」を9月4日福井大学アカデミーホールにて開催しました。

今年は、福井工業大学、福井大学、岡山大学、国土館大学の7研究室の教員と学生、えちぜん鉄道株式会社、町田まちづくり公社、福井県総合政策部交通まちづくり課、福井大学産学官連携本部より5名の方々をお招きし、総勢55名というこれまでにない規模で実施することができました。テーマは「田原町駅を中心とした空間デザインとモビリティを考える」。実際に現地にも赴き、事業者や行政、専門家の方々から話を聞きながら、学生目線からの提案を行いました。

(福井工業大学 デザイン学科 三寺 潤先生より寄稿いただきました。)



## 編集後記

夜もすっかり涼しくなり、秋の訪れを感じる今日この頃。COC+推進室の窓からは、秋の香りが漂ってきます。そして、大学連携センター(Fスクエア)でも後期の講義が始まりました。履修学生の中には、前期にFスクエアで講義を受けていた学生もおり、継続して後期の講義も受講してくれていることをうれしく思います。さて、2017年度もあと半分となりました。最後まで全員で駆け抜けていきましょう!(渡辺)

